

式 辞

春の陽射しとともに木々の息吹きを感じる今日のこの佳き日に、ご来賓PTA会長 岩田由香様、並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、兵庫県立神戸北高等学校第四十六回卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもとより、在校生、教職員にとりまして、この上ない喜びでございます。本校教職員を代表して皆様に厚くお礼申し上げます。

只今、卒業証書を授与しました四十六回生百七十七名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆様のお喜びも、いかばかりかとお察しいたします。

さて、私にとって四十六回生の皆さんは、大変思い深い学年でした。一年と少し前、いっしょに沖繩に修学旅行に行ったからだけではありません。けれども、あの修学旅行では、皆さんの素直な態度と言動から、現地の方々に何度も褒めていただきまし

た。私は、鼻が高かったのと同時に、やはり自分の見る目は正しかったと再認識したことでした。

本当に良い修学旅行であったと思いますが、そのすぐあとからコロナ禍が始まりました。皆さんの一つ下の学年、四十七回生の修学旅行は、事実上中止になったのと同じであることを考えれば、あの修学旅行は、いかに貴重なものであったかが改めて分かります。

コロナ感染症に関するお話は、ここで避けて通ることができません。その後、夏になる頃に学校も再開され、このまま治まるのかと思いきや、第二波・第三波が襲ってきました。こここのところ再び感染者数は下がってきてはいますが、私は、感染者数や死亡者数についてのマスコミの報道には、強い違和感を覚えています。

特に、亡くなった方について、「昨日の死者数は何人」「今日の死者数は何人で、何人増えた、減った」などと、日々、亡くなった方々が「数字で」報

じられています。問題はそこです。人間の死というものには、尊厳をもって扱われるべきもので、毎日数字を挙げて、減った増えたと一喜一憂するものではありません。たとえ一日にわずか一人の死者であったとしても、その死の背景には、どんな悲しい物語があったか分からないのです。

卒業生の皆さんは、このようなマスコミの報道を鵜呑みにすることなく、どうか、何が正しいか間違っているかを見極める目を持って、これからの生活を送ってください。

皆さんが高校最後の学年になる直前に、突然、出口が見えないまま、「臨時休校」が始まりました。そのうち、総体をはじめとした高校最後の公式戦も次々に中止となり、絶望に似た気持ちになった人もいたと思います。校長室の私のところに、直に訴えに来た人も複数ありました。

私は、北高ではどんなことができるだろうかと悩みましたが、最終的にはコロナが少し落ち着きを見

せた頃、多くの部活動で「代替大会」が実施できたことは、本当によかったことでした。

北高での行事についても、最初から安易に「中止」を選ばずに、内容が変わろうとも実施するとの基本姿勢で対応してきました。しかし、そもそもコロナ以前に、皆さんの学年は、高校入学以来、色々な時代の動きに翻弄された学年であったと思います。

たとえば、進学に関して見れば、皆さんが受験する年から変わる大学入学共通テストと、それに導入される英語の外部検定試験やポートフォリオ。しかし、その英語外部検定試験やポートフォリオは、突然取り止めという信じがたい事態にもなってしまいました。極めつけがコロナでした。

そのように実に色々なイレギュラーなことがあった三年間であったと思いますが、喜ばしいのは、今日こうして卒業の日を迎えられていることだと思えます。

この国の将来を担う皆さんは、今後ともコロナ感染症をはじめとして、どうか健康には十分に留意され、健康でご活躍されることを心からお祈りします。

次に、保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。桜の花が咲き誇る三年前の春、期待と不安で胸をいっぱいにして入学式を迎えられたお子様も、こんなに立派に成長され、今まさに新しい社会に羽ばたこうとされています。

教職員一同、保護者の皆様とともに、誠心誠意、努力をして参りましたが、皆様の思いやご期待に添うことができたかどうかはわかりません。

しかし、お子様方がこのように立派に成長され、それぞれの道に巣立っていかうとされていることをもって、ご容赦いただくとともに、引き続き神戸北高校へのご支援をお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご来賓のPTA会長様、本日はご多用中にも関わらずご臨席賜り、誠にありがとうございました。これから、この前途有望な若者たちを温かく見守り、励ましていただけたら幸いです。

以上、卒業生の皆さんの輝かしい前途に幸多からんことを祈念し、式辞といたします。

令和三年二月二十六日

兵庫県立神戸北高等学校長

長澤 和弥